

社会学部報

◇学部研究会

- 60年10月23日 発表者 荒川義子教授
「危機介入のケースワークへの適用」
- 60年11月20日 発表者 対馬路人助教授
「新宗教における千年王国主義」
- 60年12月18日 発表者 真鍋一史教授
「米国ワシントン大学における高等教育・研究の現状」
—とくに日本研究を中心として—

◇会員の新著

- 田中國夫教授「都市の時代」(分担執筆)
昭和60年10月 都市文化社
- 武田 建教授「心を育てる」
昭和60年10月 誠信書房
- 真鍋一史教授「世論の研究」(学部研究叢書
第3篇)
昭和60年10月 慶応通信
- 真鍋一史教授・中野秀一郎教授・倉田和四生
教授・船本弘毅教授
『現代アメリカ社会論—「共同研究アメリカ」
研究報告書—』(分担執筆)
昭和60年10月 関西学院大学アメリカ研究会
- 高坂健次助教授「数理社会学の現在」(分担
執筆)
昭和60年11月 数理社会学研究会
- 山本剛郎教授「与力制度と村落構造」(共著)
昭和60年11月 多賀出版
- 故余田博通教授追悼論文集「村落社会—構造
と変動—」
昭和60年12月 関学生協出版会

◇海外出張

- 萬成 博教授 昭和60年12月7日から12月13
日まで、「社会学の応用に関する国際会議に
出席」のため、中華人民共和国へ。
- 杉山貞夫教授 昭和60年12月14日から12月24
日まで、「ミシガン大学ハロルドシアピロ学
長からの訪問要請に応じ、講演」のため、ア
メリカへ。
- 田中國夫教授 昭和60年12月19日から12月22
日まで、「港湾都市(神戸・シンガポール)
の人口問題に関するセミナーに出席」のため、
シンガポールへ。

学会消息

◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第26回大会は、昭和60年10月5日(土)と6日(日)の両日、東京大学において開催された。本学からは田中國夫教授が、「わが国社会心理学の『社会』とは何か」を発表し、田中國夫教授、岩淵千明氏の共同研究で、「プレッシャーがかかる時——プロ野球日本シリーズでの分析——」Self-AwarenessとSelf-Presentationから——を、岩淵千明氏が、田中國夫教授、広沢俊宗氏(大学院)の共同研究で、「妻型・母型・女性型の性役割観に関する研究」を広沢俊宗氏が、それぞれ発表した。

◇日本広告学会

日本広告学会第16回全国大会が昭和60年10月26日(土)と27日(日)の両日、岡山商科大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、米国ワシントン大学の田村泰邦教授との共同研究の結果を「マーケティング調査における質問紙のデザインのシステマティックな方法——米国のスーパーマーケットにおける調査事例——」と題して発表した。

◇日本社会学会

第58回日本社会学会大会は昭和60年11月3日(日)、4日(月)の両日、横浜市立大学で開催された。この学会で加藤春恵子教授は第一日目のコミュニケーションⅠの部会、高坂健次助教授は社会心理・社会意識Ⅰの部会でそれぞれ司会にあたった。真鍋一史教授は第二日目の社会学研究法Ⅱの部会で「社会問題の認知をめぐる諸次元の測定—概念化と操作化の試み—」について、音楽の部会では博士課程後期課程の松田 健氏が音楽家の社会学(1)—音楽家と時間—についてそれぞれ研究報告を行った。

この大会の参加者数は、会員823名、非会員145名、合わせて968名にのぼる盛会となった。また2日目の3つのテーマ部会では古典の現代的解説、「日本らしさ」再考、「ネットワーキング」—現代の自発主義と運動—についてそれぞ

れ長時間にわたって活発に報告・討論が行われた。

◇日本新聞学会

1985年度秋季研究発表会が11月9日、東海大学湘南校舎で開催され、本学部からは津金沢聡広、真鍋一史、加藤春恵子各教授および芝田正夫助教授が出席した。個人研究発表では、真鍋教授が「社会問題の認知とコミュニケーション行動」について報告を行った。加藤教授は個人発表全体の司会を担当した。個人研究発表のほか、ワークショップが「A：ジャーナリズムとは何か」「B：マス・メディアの集中排除」「C：『内容分析』の可能性とその問題点」の三部会にわかれて開かれ、各人がそれぞれ討論に参加した。なお、次回学会は5月24日、25日両日同志社大学にて開催される予定である。

◇日本出版学会

1985年度秋季学会が11月16日(土)、関西学院大学第四別館に於て開催された。午後一時からは特別公開シンポジウムが「いま読者をどうとらえるか——出版社・取次・書店の立場から——」と題して行われ、多数の参加者を得た。関西で活動している出版関係者中心のシンポジウムでは初めての試みとして関心を集め、討論も活発に行われた。本学部からは、討論者のひとりとして芝田正夫助教授が参加し、津金沢聡広教授(学会理事)は主に大会運営を担当した。日本出版学会としては本学では、はじめて開かれた次第で、関係各位ならびに学生有志の御協力に心から感謝申し上げます。

執筆者紹介 (掲載順)

大道安次郎	名誉会員	田中國夫	社会学部教授
高田真治	社会学部教授	井上和子	社会学部大学院研究員
芝野松次郎	社会学部専任講師	谷川賀苗	社会学部大学院博士課程前期課程
倉田和四生	社会学部教授	浅野仁	社会学部助教授
山路勝彦	社会学部教授	斎藤千鶴	社会学部大学院博士課程後期課程
真鍋一史	社会学部教授	上田博子	社会学部大学院博士課程前期課程
牧正英	社会学部教授	遠藤惣一	社会学部教授
西山美瑛子	社会学部教授	小笠原慶彰	社会学部大学院研究員

社会学部研究会々員

会長	遠藤惣一		
評議員	津金沢聡広	杉山貞夫	牧正英
	中野秀一郎	村川満	高田真治
会計監査	田中國夫	山本剛郎	
書記	小倉克秋		
名誉会員	青山秀夫	大道安次郎	藤原恵
	本出祐之	小関藤一郎	蔵内数太
	岡村重夫	嶋田津矢子	清木盛光
	枋原知雄		(ABC順)
普通会员	杉原方	西尾朗	定平元四良
	萬成博	領家穰	倉田和四生
	半田一吉	武田建	佐々木薫
	森川甫	張光夫	中山慶一郎
	J.A. ジョイス	宮田満雄	船本弘毅
	春名純人	紺田千登史	西山美瑛子
	安田三郎	真鍋一史	加藤春恵子
	山路勝彦	鳥越皓之	荒川義子
	安藤文四郎	芝田正夫	浅野仁
	高坂健次	対馬路人	芝野松次郎

関西学院大学社会学部研究会会則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
 - 2 研究会および講演会の開催。
 - 3 研究叢書の刊行。
 - 4 その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の3種とする。
- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
 - 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
 - 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 19,200円、賛助会員は年額 10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本学社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和56年度入学生より年額 1,600円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
 - 2 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
 - 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
 - 4 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
 - 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員任期は2年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は年1回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本学社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

＜編集後記＞

『社会学部紀要』も昭和35年に第1号が発行されてから52号を数えることになりました。この間ずっと社会学部とともに歩まれ、社会学部で最も長い教授歴をもたれる杉原方先生が定年退職されることになり、今号は「杉原方教授記念号」とさせていただきます。

先生の永年にわたるご指導に心から感謝いたしますとともに、ますますのご健康とご活躍をお祈りいたします。

学部紀要は社会学部研究会による事業の1つで、会員によって支えられています。今回もまた名誉会員の大道安次郎名誉教授や大学院生などからも投稿いただきました。皆様に感謝申し上げます。

学部紀要の発行は、いうまでもなく編集から発行に至るまでの煩瑣な作業なくしてはできません。海野雅経事務主任をはじめ学部事務室のかたがたにこの労をとっていただきました。皆様にお礼申し上げます。 (高田)

61年3月20日 印刷

61年3月25日 発行

編集発行人 遠藤物一

発行所 関西学院大学社会学部研究会
〒662 西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)(53)6111(代表)
(内線)4212

印刷所 尼崎印刷株式会社
〒660 尼崎市北大物町25
電話(06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 52

March 1986

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
